

英語領域

教授 **大澤 聡子**

## 専門分野

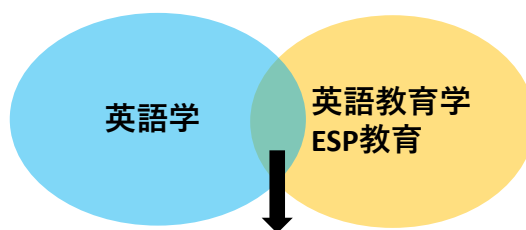
英語学  
統語論  
英語教育学

## 学位・資格

英語教育学 修士  
中学校教諭専修免許  
高等学校教諭専修免許研究者情報  
(Research Map)

## 専門分野と社会との関わり

英語学と英語教育学を専門とします。英語学の中でも、文の構造やその構造を作る仕組みを扱う統語論という分野を専門とします。このような言語学的知識は、「ことば」のコミュニケーションに不可欠なものであり、したがって、英語学の知識は英語コミュニケーションに欠かせません。英語学の基礎知識が円滑で、誤解のない英語コミュニケーションに必要であり、英語運用能力に向上に役立つことを授業の中で伝えています。また、最近では特定の職場で使われる英語、ESP（English for Specific Purposes）が国内の様々な場面で必要になっている一方、教材開発が進んでいない現状から、社会ニーズに応じた教材開発にも取り組んでいます。



- 英語学の知識に裏打ちされた学校教育
- 特定の職場で使われる英語（ESP）の教材開発

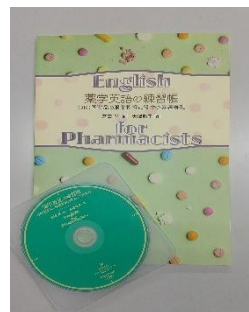
## 最近の活動紹介

## 教育活動／研究活動

## ESP教育と教材開発

英語学と英語教育学を専門としていますが、過去5年間は特に英語教育に注力し、医療関係の英語教材の開発と出版、また出版した教材を使った授業実践報告と今後の教材開発へ向けた研究を行いました。

職場などで特定の目的で使われる英語はESP(English for Specific Purposes)と呼ばれ、国内でも英語対応の場面が増える中、様々な職場でESP教材が必要とされています。



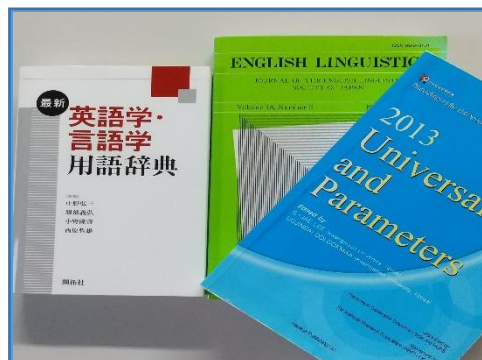
『薬学英語の練習帳』（崩文書林）

## 地域貢献活動

## 公開講座

TOEIC中級者向けの公開講座を実施します。

また、地域貢献として、現代英語の仕組み、特に英文法について知りたい方に向けた公開講座等に取り組みたいと考えています。高校までの学校文法では扱っていない構文、語法などについてその背景にある仕組みや理論を解説し、英文法の「なぜ？どうして？」にお答えします。英語について本質的な理解を深めることは、有意義な英語コミュニケーションへつながります。



## 教育・研究・地域貢献などへの抱負

グローバル化が進む現在、英語は国外だけでなく、国内でも必要なコミュニケーションツールとなり、その必要性が高まる一方、AIの発展により、語学学修のあり方にも変化が求められています。スマホを開けば手元で即座に翻訳ができてしまう便利な世の中で、これまでの伝統的な学修方法は見直しが迫られていると感じます。便利な道具を効率的に利用する一方、着実に語学能力を身につけるには、地道なトレーニングも欠かせません。デジタル技術を駆使し、しっかりした英語運用能力が身に付く教育技術や方法を工夫・実施してまいります。

教授大澤 聡子

